

「校正における測定不確かさの評価」(JCG200) 第 8 版改正案にかかるご意見及び回答

ご意見	回答
<p>付録 B 関連用語の解説の B2 ILAC P14 の 4.1 を引用しているのであれば、B2 校正測定能力の後ろに「(ILACP14 4.1 項より)」とあると良いと思います。</p>	<p>付録 B は、原文である EA-4/02:2013 Appendix B の和訳文を掲載していますので、引用元の新規追加及び原文からの変更は適切でないと考えます。改正案（ご指摘の箇所は現行版と同一）の引用情報でも混乱は小さいと考え、本案の通りとさせていただきます。</p>
<p>付録 B 関連用語の解説の B6 注記にある「D.3.5」は由来が不明りょうではないでしょうか。B6 包含確率の「VIM2.37」ではなく、注記の 3 行目にある「(GUM3.1.1 項より)」でもないようです。もし、GUM 附属書 D の D.3.5 項由来であれば「B6 包含確率 (GUM D.3.5 項より)」とするのが良いと思います。</p>	
<p>付録 B 関連用語の解説の B7 「実験標準偏差 (GUM 4.2.2 項より)」とありますが、GUM B.2.17 の引用ではないでしょうか。「実験標準偏差 (GUM B.2.17 項より)」とするのが良いと思います。</p>	
<p>付録 B 関連用語の解説の B24 B24 の箇条名が「タイプ B の評価方法 (VIM2.29)」とありますが、VIM2.29 の表題は「Type B evaluation of measurement uncertainty」であり、同ページの B23 のように“方法”は不要と思います。「タイプ B の評価 (VIM2.29)」とするのが良いと思います。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。 B23 の訳と整合し、「不確かさのタイプ B 評価 (VIM2.29)」と変更させていただきます。</p>
<p>付録 C 付録 C が GUM 3.3 を引用しているのであれば明示するのが良いと思います。「付録 C 不確かさの原因 (GUM 3.3 より)」と引用を明示す</p>	<p>付録 C は、原文である EA-4/02:2013 Appendix C の和訳文を掲載していますので、引用元の新規追加及び原文からの変更は適切でないと考えます。改正案（ご指摘の箇所は現行版と同一）の引用情報</p>

るのが良いと思います。

でも混乱は小さいと考え、本案の通りとさせていただきます。

以上